

平成8年10月27日(日)

第22回 越谷市民まつり

郷土研究会 展示出品紹介

『火消しポンプ 竜吐水』

越谷市郷土研究会 会長 谷岡隆夫

『大松の清浄院』

越谷市郷土研究会 理事 西田 茂

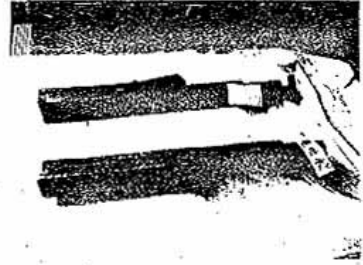


写真 1
下が天保6年の水鉄砲型
竜吐水

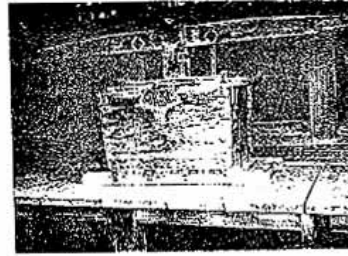


写真 2
明治30年の木箱型
竜吐水

火消ポンプ 竜吐水

谷岡隆夫

江戸時代の消火器は、水鉄砲型（写真1）が主流であった。越谷市内では市郷土収納館所蔵の天保六（一八三五）年のものが最も古い。市内大房の藤井家より寄贈されたものである。長さは九〇センチ。この水鉄砲では、大火に対して効果は望めなかつたろう。

明治になり、水鉄砲型は木箱型竜吐水という消火ポンプにかわった。竜が水を吐くのに似ているのでこの名前がついた。当時、越ヶ谷住人で細工職人「花屋寅吉」の製作による二基の竜吐水が現存している。

一、市内西新井・石神井神社境内にある竜吐水（写真2）
明治三十年西一月 花屋寅吉の銘がある。
二、市収納館蔵

明治二十一年子三月 越ヶ谷一五〇号地 花屋虎吉作の銘がある。

この地番は今はなく、その後は不明である。

明治時代、各村に配備されていた消火ポンプ・木箱型竜吐水は、性能のよい車つき鉄製腕用ポンプにかわり、竜吐水はほとんどが処分された。

市内で残っているのは数基にとどまる。

これらの製作者は花屋寅吉のほかは油屋清治郎がいる。油屋清治郎のご子孫は、現在、春日部駅前で加藤仙蔵氏が屋号を油屋として、水道設備業を手広く営業されている。

清治郎の墓は春日部真蔵院にあり、摺輪法信士の法名で、静かに眠っている。

大松の清浄院

西田 茂

浄土宗・芝増上寺末・栄広山浄土寺と号す。

寺領十二石は慶安元（一六四八）年九月十七日賜う。本尊阿弥陀を安ず。立像にて長さ三尺（九〇cm）ばかり、恵心の作といえり。

開山堅真、宝徳元（一四四九）年七月二十八日示寂す。

当寺の東、少しばかり隔て開山塚というあり。そこより掘り出せし古碑に、嘉禄元（一二二五）年の文字見えたり。是、起立の人の碑ならんという。鐘樓、宝永七（一七一〇）年の鑄造の鐘を掛ける。

（新編武蔵風土記稿第十巻）

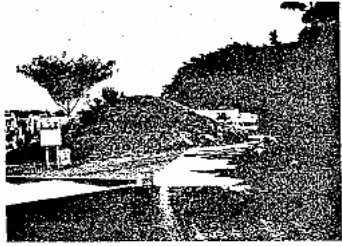
開山塚

文安四（一四四七）年の春、桜の花見に湖畔を訪れた栄広山住僧堅真上人の前に美女が現れ、跪いて「私は三頭一尾の大蛇にて、野木上野亮の妻であるが、結城の人と我が身母子主従を滅ぼした將軍義教への怨みは、骨髄に徹して忘れられず、嘉吉元（一四四一）赤松（満祐）殿の怨念に頼り、將軍を殺させて恨みを晴らしたが、王者尊貴を弑した罪で湖辺にさまよっている。願わくば仏の慈悲にすがり成仏したい」。

上人は大蛇の悲痛な訴えを聞かれ、文安四年三月二十一日、御堂法会を開いて、七ヶ日の大念仏修行をする。

二十六日夜半より一山鳴動し、夜が明けてみれば湖は岡に変じていた。驚いた人々は蛇塚といい、開山塚とも称したという。

（六ヶ村栄広山由緒著聞書）



開山塚



清浄院の本堂